展望台

故郷の国際化に思う

人材開発コンサルタントHRD代表
佐藤（さとう） 典子（のりこ）氏（52）
＝井原市井原町

私は生まれも育ちも井原だが、留学や仕事の関係で成人してからの大半を東京と海外で過ごした。その私が二十数年ぶりに井原に戻って驚いたのは、故郷の国際化である。

まずは、外国人が激増したこと。スーパーに行っても、英語、スペイン語、中国語が聞こえる。井原市のホームページによれば、居住外国人は500人を超える。国際交流活動に従事される市民ボランティアの必要性も意義も高いのが納得できる。

次に、地元有力企業の国際化。若い研修生を中国から招待したりする機会があったり、海外拠点が数カ国に及ぶ事業所もある。アメリカや中国へ頻繁に出張するビジネスパーソンもいる。ひと昔前では想像できなかったことだ。

最後に子供たちの英語力が格段とアップしたこと。先日、中学生の英語スピーチコンテストを審査し、異文化対応センスを磨くことが可能になった今、ぜひ、次世代を担う子供たちには、語学プラス専門知識や技術を身につけて世界に飛び出してほしいと願っている。

井原に住みながら、外国語力を伸ばす幹部を海外へ赴任させるが、発音やジェスチャーのうまさに感動した。彼らは小学校からネーティブの英語教師たちに教わっている。

◇

次回は、井原アルナ（井原市）社長の岡崎直己さんです。

井笠リレー寄稿